

特集「音楽情報処理技術の進歩とその拡がり」の 編集にあたって

平井 重行^{1,a)}

音楽とコンピュータの間を取り持つ音楽情報処理技術の発展は、その内容の深化や高度化が著しく分野の拡がりや実用化という点でもかなり目覚ましいものがあります。特に、最近では音響信号処理技術と機械学習技術の高度化が行われ、インターネットを活用した大規模な音楽メタデータ収集と解析を行って楽曲推薦などに活用する実サービス（例：Apple Music, Google Play Music など）がいくつも登場しています。また、デジタルファブ리케이션などのムーブメントにより、楽器のフィジカルインタフェース構築の拡がり一般的になり、音楽作品やシステムの制作など、研究としての方向性もより拡がりや進展を見せているといえます。このような流れの中で、本学会論文誌では数年に一度、音楽情報処理の特集号が企画されてきました。今回の特集号においては情報処理学会としても大きな進展となる企画を立てました。それは、オーディオデータや動画データなどを論文の一部として含め、採録されたものは論文本体と同様にアーカイブ対象として保持する、という企画です。特に、「音楽」というメディアの特性上から、従来の紙面だけでは伝えきれない研究成果の具体的内容を、正確かつ明確にアーカイブ化し、論文読者に技術レベルや詳細内容を理解してもらうことは非常に大事な分野ともいえます。この点を考慮し、採録論文の学術的資料価値をより高めることを目的として企画した次第です。本学会のすべての分野において、このような側面が重要になるとは限りませんが、インターネットや情報サービスを活用し、「情報処理学会」という名に値する形での学術成果の価値や意義を高める試みとも考えています。

さて、今回の特集号には、合計で 29 編の論文投稿がありました（うち 6 件が英語論文）。音楽情報科学研究会の主査、幹事、運営委員を中心に組織した編集委員会で慎重に審議した結果、最終的に 7 編の論文が採録となりました（採択率 24%）。投稿数からすれば数は少なめとはいえ、一般や福祉を対象とした応用システムやその知見に関する研究から、作編曲のための技術、分析のための技術、アーカイブのための技術など、多岐にわたる内容になっています。

そのような中で、動画付きで投稿されたものは 2 件で、その両方とも採録となりました。

最後に、この特集号を編集するにあたり、投稿して下さったすべての著者の皆様、ご多忙中のところ、短期間で査読いただいた査読者の方々には感謝いたします。また、本特集号編集委員の皆様、ならびに学会の論文誌編集委員会と事務局の皆様にも深く感謝いたします。

「音楽情報処理技術の進歩とその拡がり」特集号編集委員会

- 編集長（ゲストエディタ）
平井 重行（京都産業大学）
- 幹事（五十音順）
片寄 晴弘（関西学院大学）
北原 鉄朗（日本大学）
後藤 真孝（産業技術総合研究所）
平賀 瑠美（筑波技術大学）
- 編集委員（五十音順）
伊藤 彰則（東北大学）
伊藤 貴之（お茶の水女子大学）
大島 千佳（佐賀大学）
小坂 直敏（東京電機大学）
亀岡 弘和（NTT/東京大学）
浜中 雅俊（京都大学）
平田 圭二（公立ほこだて未来大学）
帆足啓一郎（KDDI 研究所）
吉井 和佳（京都大学）
吉高 淳夫（北陸先端科学技術大学院大学）

¹ 京都産業大学
Kyoto Sangyo University, Kyoto 603-8555, Japan

^{a)} hirai@cse.kyoto-su.ac.jp